

改訂の序

「救急医療は医の原点である」

2011年3月11日に起こった東日本大震災では多くの生命、財産が失われたが、被災地内の医療従事者はもとより、被災地外からも多くの医療チームが現地に入って傷病者に医療を提供した。しかし、インフラ機能の低下や混乱によって十分な高度医療の提供ができない環境でも基本的な救急医療の実践が不可欠であった。どのような環境においても、どのような医療従事者でも救急医療を提供する能力が求められていることを再認識させられた出来事であった。

ただし、医療従事者であれば誰もがレベルの高い救急医療を提供できるわけではない。臨床現場で迅速、かつ確実な診療を行うためには、十分な学習と経験、そしてフィードバックが必要である。近年では臨床研修病院をはじめとして教育システムの充実に傾注する医療機関が増えてきているが、それでも若い医師だけで救急外来を守らねばならない状況は相変わらず存在している。十分な指導体制がない環境でも最低限の初期対応を行うためには簡潔なマニュアル書は不可欠である。本書は救急医療の第一線で戦う若い医師のために書き下ろされたものである。

初版発刊から2年あまりの年月が流れ、改訂版を制作するにあたって、改定されたガイドラインの内容を盛り込む、新たな救急医療のトレンドを付加する、より実践的な内容に踏み込むということに留意した。本書のみで救急医療の習得ができるわけではないが、手技に関してはすべての診療科で求められる基礎的学習事項である。本書を手にすることによって、少しでも救急医療に対する興味、理解が深まることを期待したいと思う。

2012年1月

編者を代表して 児玉貴光